

語らいの中からはじまる

# 川の再生

「エフエムしばた」の収録現場から

市内を流れる川を、昔のような、きれいな水の流れる川に戻したい―

これは、すべての市民が心にもっている願いではないでしょうか。そして市内には、美しい川を取り戻すために活動している市民団体があります。今回、エフエムしばたの収録を兼ね、市内で活動している二つの団体と市の職員とで、「川の再生」をテーマに話し合っていたきました。

美しい川が

地域の魅力を演出する

司会 現在、皆さんはどのような活動に取り組んでいるのですか。

和田 せっかく新発田川という、魅力的なまちづくりの良い素材があるのに、この素材を十分に生かしていないというのが私たちの率直な感想でした。

そこで、8年ほど前に、新発田川に対する市民の関心を高めようと、川の周辺にアヤメを植える活動を始めました。また、独自の水質調査を、年3回程度実施しているほか、「生き物調査」や小学校の総合学習のお手伝いなども行っています。





エムエムしばた  
吉田さん（司会）



環境衛生課  
高澤係長



下水道管理課  
松田課長



NPO法人加治川ネット21  
事務局長 若月さん



新発田川を愛する会  
会長 和田さん



平成22年に加治川ネット21がお手伝いした二葉小学校の総合学習の様子。「水」の問題について考える、よいきっかけとなったようです。

若月 私たちの活動趣旨は、加治川流域の子どもたちに、より良い環境を引き継ぎ、新発田市のふるさとづくりに寄与することです。地域の川を活動の素材として、地域づくりや地域の連帯づくりに取り組んでいます。新発田の川の代表である新発田川については、平成16年から3か年にわたって、「新発田の街裏散策」と銘うった新発田川沿いを歩くイベントを行いました。市外から人を招き入れ、市外の人に褒められることによって、新発田市民に新発田川へ目を向けてもらうのが目的で、参加者からは好評でした。でも、新発田川の水がもつときれいだっただけで、もつと喜んでもらえたのではないかと考えています。

高澤 環境衛生課では、市内の川の水質を守るために、毎月1回、加治川や新発田川など、市内の主要河川の水質を検査しています。また、これ以上川が汚れないよう、ゴミのポイ捨て禁止や灯油もれの防止などの啓発活動を行っています。松田 「川の再生」に最も効果的なのは、下水道と農業集落排水処理施設（以降、「下水道」という）だと思えます。下水道管理課は、その維持管理をしています。しかし、新発田市の公共下水道の整備率は平成22年度末で38%余り、下水道接続率は約57%と、県内でも最も低い水準となっています。新発田市の下水道は、まだまだ普及が遅れているというのが実情です。



「新発田川を愛する会」がお手伝いした御免町小学校の総合学習の様子。新発田川の庚申壺で「生き物調査」をしました。

川を再生するために必要なこと  
司会 今後、どのような活動を計画していますか。  
若月 11月12日の土曜日に、新発田市と聖籠町の小学生による「環境学習発表会」を計画しています。はじめは学校単位で、参観日などに学習成果の発表を行っていましたが、4年前からは各小学校が集まって発表し、学習の成果をみんなで共有できるようにしています。さまざまな地区の子どもたちに、環境学習の成果発表と地域自慢をしてもらい、それを聞いた参加者に地域の環境の良さを再認識していただくというのがねらいです。  
川の上流と下流の子どもたちが、川の汚れ具合を確認し合う。こうした中で、下水道への接続を含め、地域にきれいな川を取り戻すために、これから何をしなければならぬのかを、子どもたちに気付いてもらいたいというのが私たちの願いです。多くの市民の皆さんにも発表を聞いてもらいたいので、ぜひ参加



していただきたいです  
ね。

**和田** 今後も、これまで  
行ってきた、アヤマの植  
栽や水質調査、生き物調  
査などの活動を、地道に  
続けていきたいと考えて  
います。

私は、魅力のある、豊  
かな川の要素は、「水が  
きれいなこと」「水量が豊かなこ  
と」「生き物が多く棲んでいるこ  
と」の三つだと考えています。  
ただ、新発田川の場合は、すぐ  
にこの三つの要素を実現するこ  
とは難しい状況です。

新発田の川を再生させるため  
には、下水道の整備などによる  
水質の改善はもちろん大切で  
すが、魚が川を行き来すること  
ができるように堰や水門に魚道を  
設ける、地域の子どもたちなど  
が水遊びをできる場所（親水空  
間）を設けるなど、新発田川の構  
造そのものを見直すことも必要  
だと考えています。

**高澤** 近年、舟入町辺りの新発  
田川にカモが棲みつくようにな  
りました。以前に比べると生き  
物がだいぶ戻ってきていると感



じています。水がもつときれい  
になれば、昔のような川遊びが  
できる日が、再び来るのではな  
いかと期待しています。

そのために、関係する自治体  
や市民団体の皆さんと話し合い  
ながら、できるだけ早く、美し  
い川を取り戻せるよう、努力を  
続けていきたいと考えています。

**松田** 今まで以上に積極的に進  
めていかなければならないのは  
下水道への接続促進です。どん  
なにお金をかけて下水道を整備  
しても、皆さんに接続してい  
ただけなければ、川の再生には役  
立ちません。市民の皆さんには、  
下水道が使えるようになったら、  
できるだけ早く接続していただ  
きたいと思います。

これまでも「広報しばた」で  
下水道への接続を訴えてきまし  
たが、十分な理解が得られてい  
ないのが現状で、依然として接  
続率は低いままで。これから  
は、市民団体の皆さんとも協力  
しながら、市民の間に下水道接  
続の機運が高まるよう、幅広い  
運動を展開していきたいと考え  
ています。

## 団体紹介 その1

### NPO法人 加治川ネット 21

「水」をテーマとし  
た、たくさんの方のイベン  
トを行っています。

同会主催のイベント  
は、「広報しばた」で  
随時、お知らせするほ  
か、同会ホームページ  
からご覧になれます。

お問い合わせは、同  
会事務局の若月さん  
（☎314111）まで。



▲平成22年「カッパの川流れ体験」。きもちいい～!!



▲県新発田地域振興局の協力による水質検査(平成22年)

# 川の再生



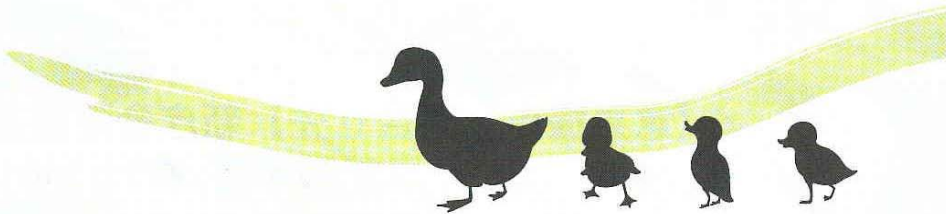
と市が連携し、交流を深め、情報交換を密にすることによって、良い発想が生まれるのだと思います。そのためにも、市民団体と市がいっしょに懇談したり、市民を巻き込んでシンポジウムを開いたりすることは、たいへん意義のあるこ

**市民と行政の連携で川をよみがえらせる**

**司会** 今、市民団体との連携を深め、市民運動を展開していきたいというお話がありました。市民団体の皆さんは、どのようにお考えでしょうか。

**若月** 昔は川の水を、地域のすべての人が使う共有財産として、大切に使ってきました。それが、今は、地下に埋めた下水管になったり、川にコンクリートの蓋をかけたりして見えない存在になり、「自分一人くらい汚してもかまわないだろう」というような利己的な考えを持つ人が多くなってきたように思います。

川の再生に限らず、すべての地域づくりは、市民団体と市民



と市が連携し、交流を深め、情報交換を密にすることによって、良い発想が生まれるのだと思います。そのためにも、市民団体と市がいっしょに懇談したり、市民を巻き込んでシンポジウムを開いたりすることは、たいへん意義のあるこ

とだと思えます。

**和田** 新発田川沿いに住む知人が、「7年くらい前は、夏になると川が臭くて困ったが、今ではコイが泳ぐようになった」と喜んでいました。

下水道に接続しても、だれも褒めてくれるわけではありませんが、その効果は確実に表れてきています。下水道は、川の再生に重要な役割を果たしているのです、私たちも市との連携を積極的に考えていきたいと思えます。

**司会** 川を汚してしまった私たちの世代には、きれいな川を取り戻し、次の世代に伝えるという大きな責任があると思います。しかし、それは容易ではありません。市民一人ひとりが、「川の再生」のために何ができるのかを考え、実践して初めて、実現することができると思えます。



## 団体紹介 その2

### 新発田川を愛する会

新発田川を活動の場として、さまざまな行動をしています。会員になりたい方や活動の連携を希望する方は、同会事務局の新田見さん（☎090・4923・1519）までお問い合わせください。



▲新栄橋付近にあやめを植えているところ



▲福勝寺裏のあやめの世話、粗朶(ソダ)の草取りの様子